

# 大震災から7年

2018. 3. 12

6年生に、この1年間にかかわった人の思い出を聞きました。高齢者施設に行った時のこと、津波の語り部のお話を聞いたことを、答えてくれました。

昨日は、戸三小の体育館で、吹奏楽団の定期演奏会がありました。団員の人たちがとても頑張っていました。みんなとても頑張っていました。お客様方もたくさん来てくれました。保護者の方だけでなく、地域の方々も来てくださり、「子供たちが素晴らしい。」「小学生とは思えない。」「元気をもらいました。」「感動しました。」「みんなで合わせるの難しいのにできていたから仲間を大切にすることなのだと思います。」などと言ってくれました。聞いていただくことができ、とても有難かったです。

昨日は、東日本大震災から7年の日でした。7年がたった今だからこそ考えられることなど、大きな地震があったことを忘れず、災害にあった時や災害の後、私たちはどのように生きればいいのかを問いかける番組もたくさん流れました。

みなさんは、「つなみ」という本を知っていますか。つなみの被害にあった、岩手県、宮城県、福島県の子供たちが、震災の後に書いた作文が載っています。1年後と5年後にこういう本になりました。今日は、その中から、地震の時に岩手県陸前高田市で小学校3年生だった石川のあさんの作文を紹介します。

平成23年3月11日、その日、私は風邪で学校を休んでいました。地震があった時、夢中でふとんにかくれていました。地震はどんどん強くなっていき、こわいという気持ちでいっぱいでした。おばあちゃんがすぐに来てくれました。台所もお兄ちゃんの部屋も、物が落ちてめちゃくちゃになっていました。ゆれている時にいろんなものがいっきに落ちてきたので信じられない気持ちでした。お母さんとお父さんが帰ってきて、高台に行きました。近所の人と一緒に行ってそこから町を見ていました。お父さんが「津波が来たぞー。」と叫んだのでびくっとしました。お母さんは「まさか、うそでしょ。」と言いました。予想外のことが起きていました。口をきけなくなっていました。町には砂煙がたくさんたち、電柱や建物がドミノのように倒れていきました。

友達が亡くなったり、いっぱい転校していきました。地震なんか、起きなきゃよかったのに……。私は、震災のことを忘れないで、毎日を大事に過ごしていきたいです。

この石川さんが、中学生の時書いた作文には、

失っていい「命」は一つもないと、私は思う。私の兄は地震で大切な友達を失った。兄は消防士になって今は他の町に住んでいますが、高田に帰ってくると、必ず友達のお墓に行っています。きっと、大切な友達を失って、命の重さを知ったのだと思います。自然災害が起きるのはさけられない。今、世の中では、自殺や殺人などの犯罪がとても多い。あの震災で、命がどれだけ大切かをたくさんの方が知ったはずなのに……。簡単に自らの命を捨てたり命を奪ったりする人は、ある日いきなり自分の大切な人が何人も何人も一度に死んでしまうということを考えたことがあるのだろうか。

と書かれています。

毎日をどのように生きるのかはとても大事だと思います。みなさんも考えてみてください。1日1日を大切にしてください。1日1日を大切にしてきたこの1年間……。どんなことがあったかも、振り返ってみたいです。よかったら、「こんなことがあったよ」ということを書く紙を用意するので、是非、皆さんで思い出しながら、1年間を振り返り、書いたものを見せてくれるとうれしいです。

サッカーと通学路の絵の表彰をしました。